

# ここが問題！リニア新幹線

第115号 発行 2025年3月3日

リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会 linear-tokyokanagawa @googlegroups.com

## ～リニア首都圏ネットが国交大臣あてに申し入れ～2月5日 小野路工区の住宅地に酸欠気泡発生、 JR東海に対し原因究明、説明会実施の行政指導を！

リニア大深度工事と関連工事の中止を求める首都圏ネットは2月5日、国交省に対し中野洋昌国交大臣あての申し入れを行いました。

昨年8月中旬の東京・目黒川に気泡が発生したのに続き、昨年10月22日の東京・町田市の小野路工区で民家敷地内に気泡・地下水が噴出しました。目黒川の気泡についてJR東海は10月になって気泡を採取、11月に気泡の酸素濃度は4%と致死性ともいえる危険な濃度だった公表しました。リニア品川の会や田園調布住民の会が原因究明と周辺の地質



国交省への申入れ  
(2月5日)

調査を求めました。JR東海は「原因がリニア大深度トンネル工事が気泡発生の原因かどうか解明できなかった」とした上で、「目黒川の現場は人が近づけないところであり、住民の健康被害は起こらない」という勝手な理屈で調査掘進を再開しました。小野路工区の民家敷地で発生した気泡・地下水は7か所もあったと確認されており、町田の会が気泡を採取したところ、その酸素濃度はわずか1%でした。リニアの調査掘進が進む住宅地に危険な酸欠気泡が発生したことは極めて重大です。JR東海は、小野路工区の気泡発生はリニアの大深度工事が原因であると認め、一時、掘進を中止しましたが、1月23日からシールドマシンを動かしてました。住民の声を無視して工事を進めるというJR東海には、何をやっても国交省は何も言わないという思い上がりがあります。

その後、小野路工区のトンネル内部のコンクリート・セグメントはりつけに不具合が生じ、現在は調査掘進は中断しています。

住宅地での酸欠気泡発生を黙って見ているわけにはいかないとして、首都圏ネットは国交大臣に実効力のある行政指導を行うよう申し入れたのです。申し入れの趣旨は以下の通りです。

1. 小野路工区での気泡発生について至急調査を行うと共に、原因分析・再発防止策について説明会を開くようJR東海を指導すること。
2. 北品川工区の調査掘進は5か月半で終了する予定が3年もかかった。目黒川に酸欠気泡まで発生させた「失敗の総括」をJR東海が至急行うよう指導すること。
3. トンネル工事の状況をリアルタイムで公表し、住民からの連絡や意見聴取の窓口をJR東海が広げるよう指導すること。大深度トンネル予定地の地盤・地質調査を改めて行わせること。
4. JR東海が助言をしてもらっている有識者のシールドトンネル部会は社内の組織であり、部会の議事録も具体的に明らかにされていない。気泡発生事故について国が独自に第三者委員会を作り検討・検証を行うこと。

# 国交省で記者会見、JR東海への実効性ある行政指導を強く求める



2月5日国交省への申入れの後、首都圏ネットは国土交通省の記者クラブで記者会見を行いました。

冒頭で、田園調布住民の会の三木一彦さん(NO!大深度リニア訴訟原告団長)が国交大臣の申し入れ書を代読し、次いで小野路工区の気泡・地下水発生の経緯や気泡分析の結果、JR東海の対応について、リニア町田の会の龜山俊平さんが説明しました。

龜山さんは「JR東海が気泡発生の原因是リニア大深度トンネル工事が原因であると認めながら、住民の了解を得ないで一方的に調査掘進を強行したことを強く非難し、国交省に実効力ある行政指導を求めました。会見には9社11人の記者が集まりました。一社から、「今日の申し入れの際、国交省は本当に行政指導をしていると言ったのか」という質問がありました。これに対して三木さんは、「確かに行政指導を今後もしていくと言った。しかしその指導も実効力をもったものではなく、大深度工事を認可した国交省としての責任を果たしたものとは言えない。小野路の事態は住民の命に係わる重大な事であり、国交省として自ら現地調査を実施し、原因究明と再発防止のために中立性のある第三者委員会を設置することが求められている」と答えました。

## 市内のリニアトンネル工事に関する質問に川崎市長から回答～

### 私たちは、対等の立場でJR東海に対し住民の不安を背景に積極的な意見を市長に求める

昨年11月26日に東京・神奈川連絡会は福田紀彦市長あてに、市内のリニア大深度工事に対し、地元自治体としてJR東海に対して、住民の声に配慮した積極的な対応を取るよう申し入れました。それから2か月半経過した2月13日付で川崎市長から以下の回答書が送られてきました。

『この度の目黒川および小野路の事象につきましては、JR東海が、工事との因果関係や対応策について公表を行っており、本市域における工事につきましては、同社から、引き続き工事の安全と生活環境の保全に最新（ママ）の注意を払って進めていくと伺っているので、その状況を注視してまいります。

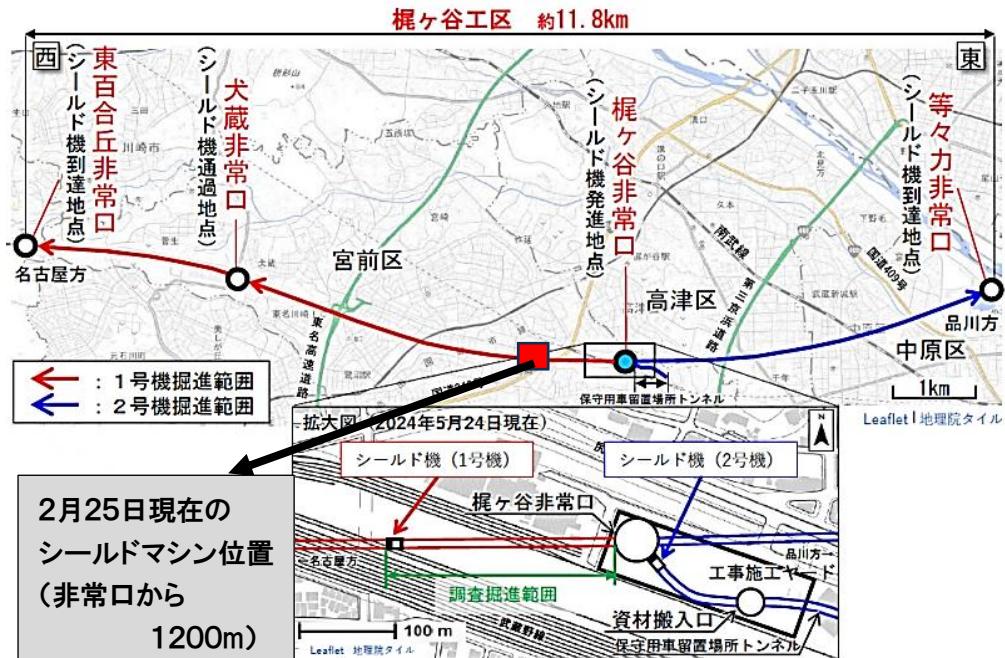
次に、地質調査等につきましては、同社において、シールドトンネル工事を安全に実施するため、万全な施工管理に取り組んでいくことを学識者や専門技術者によるトンネル施工検討委員会シールドトンネル部会において確認されていると伺っております。

また、工事に関する説明については、引き続き、トンネル掘進時期に合わせて順次オープンハウス型の説明会を開催するなど、工事に関する情報を提供していくと同社から伺っております。本市としては安全対策の徹底と沿線地域に対して工事内容の丁寧な説明を行うことなどについて要請を行っており、要請内容に対する同社の対応状況を確認してまいります。

本事業につきましては大深度法の認可申請に当たり、事業主体である同社が必要な調査を行い、国からその認可を受けたものでございます。本市として、井戸の設置等の対応をする予定はございませんが、工事に関する問い合わせがあった場合は、事業者の24時間受付ダイヤルへご案内するとともに、引き続き同社に対し、トンネル工事における更なる安全対策の徹底と、地域の皆様に対する丁寧な説明を求め、今後の対応状況を確認してまいります。

2025年2月13日、川崎市長 福田紀彦』

# JR東海が梶ヶ谷工区のトンネル掘進についてオープンハウス型説明会を実施～小野路の気泡発生は泥土圧の調整に誤りだけだったのか、地質調査が不足していたのではないか



左図はJR東海が2月25日段階で梶ヶ谷非常口からのリニア本トンネルの掘削状況を示した図。梶ヶ谷非常口から大蔵非常口に向けて、掘削機のシールドマシンが1・2号機の宮前区馬綱2丁目に進んだことを示している。

## 2月25日宮前市民館で開かれたオープンハウス型説明会リポート

梶ヶ谷工区のトンネル掘進は一日17mの掘削、東百合ヶ丘工区では432mまで進む

### < 当日のJR東海の説明と報告 >

「2月25日現在、東百合ヶ丘工区では非常口から432mまでトンネル掘削が進み、シールドマシンの位置は東百合ヶ丘1丁目に達している。工事残土は（JR東海によれば1日320台の予定）の工事車両（ダンプカー）で横浜港大黒埠頭に運ばれている。掘削は日曜日を除き毎日昼間に掘削を行い、夜間は昼間に掘削した長さ分だけ配管などのつなぎ工事をしている。体制は昼夜2交代」。報告者は2月14日、現地に赴き掘削による騒音振動を調べましたがその現象は検知できませんでした。

「梶ヶ谷工区では非常口から大蔵非常口に向けて1200mほど掘進。一日17mのペースで掘進している。作業は日曜日を除き昼夜2交代」。

現在戸建て住宅の下を掘っているので、現場で騒音・振動、地割れなどが無いかどうか近隣の方の視察が必要です。（以上報告は伊藤清美）

「梶ヶ谷非常口からの残土は梶ヶ谷ターミナル駅から14両の貨物線（武藏野南線）で川崎港の三井埠頭まで搬送している。便数は1日7往復で、一便あたりの輸送量は42コンテナで土砂量は420トンである」。

「貨物線はJR東日本のものであり、リニア残土を運べる最大量が一便あたり420トンである。それ以上の残土はダンプカ

ーで246号線→都筑→第三京浜で運んでいる（おそらく運び先は大黒ふ頭ではないか）」。

報告者は若手のJR東海社員から説明を聞きましたが、細かい数字などについては把握しておらず、マニュアルに沿って説明しているようでした。（以上報告は天野捷一）



## 「緊急集会：川崎からリニア大深度トンネル工事の危険性を問う」開催 ～4月6日（日）麻生市民館

東京・神奈川連絡会は4月6日午後2時から麻生市民館で「緊急集会：川崎からリニア大深度トンネル工事の危険性を問う」を開催します。

十数年リニア問題を追い続けるフリーライターの櫻田秀樹さんを迎え、遅れに遅れるリニア建設工事の実態を報告してもらいます。

また、これからトンネル工事が始まる南アルプスの自然と工事との関連を調べるために蛇抜け沢を調査・踏破した登山家・服部隆さんの報告ビデオを上映します。

都市圏で大深度トンネルの本掘進が行われているのは川崎だけです。工事自体は大きく遅れています。手探り状態で工事を進めるのは危険です。多くの市民の参加をお願いします。

## 町田市鶴川駅前で小野路工区問題でチラシ配布

リニア中央新幹線を考える町田の会と東京・神奈川連絡会は3月1日午後、町田市の小田急線鶴川駅前で、小野路工区の気泡・地下水発生問題についてチラシ300枚を市民に配布しました。また、市民に向けて「気泡問題は住宅に酸欠空気が発生した重大な事態であり、市民も関心を持って、危険なりニア大深度工事を中止するよう声を上げてほしい」と訴えました。

訴えを反映してか。市民はチラシを受け取り、チラシ配布者に近づいて、この問題について詳しい説明を求める姿が目立ちました。

両会からは合わせて9人が参加しました。



町田の会の気泡採取

### ここが問題！リニア新幹線ニュース N0.115

リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会  
天野捷一（中原・高津）090-3910-8173  
山本太三雄（宮前）090-8775-1879  
矢沢美也（麻生・多摩）090-6108-6568

## 中原区の等々力緑地の樹木850本を伐採～住民団体ら抗議の集会開催

川崎市中原区の等々力緑地公園を神宮外苑と同じようにスポーツ施設などを増やすため、緑地内の桜やヒマラヤ杉などの樹木850本を伐採するという無謀な計画が進められています。市が公園PF1法を使って民間不動産企業に開発権や施設の営業権を与えるもので、市もこれに則り、民間企業に協力しています。そして、緑地内の樹木や広場を減らす再整備計画をまとめています。

地元の等々力緑地を守る会を支援する川崎民主市政をつくる中原区の会は2月16日、緑地内で等々力緑地再整備を考える学習会を開催し、再整備計画を追及しました。

### 今後のリニア、大深度訴訟等の予定

- 3月 6日（木）12:00  
川崎市役所前リニアチラシ配布
- 3月10日（月）12:00  
ぜん息患者家族の会日産本社前総行動
- 3月15日（土）13:30（リアル）  
第153回東京・神奈川連絡会定例会
- 3月23日（木）10:30  
第14回原発ゼロかわさき集会・デモ  
中原平和公園
- 4月 6日（日）14:00  
川崎からリニア大深度トンネル工事の危険性を問う緊急集会  
(麻生市民館第一会議室)
- 4月10日（木）13:30  
54回リニア訴訟事務局会（リモート）
- 4月20日（日）13:30  
リニア登山者集会  
(松本勤労者福祉センター第二研修室)  
リニア沿線住民ネット後援
- 4月22日（火）14:00  
東京外環道訴訟（東京地裁103号）
- 4月24日（木）13:30  
ストップ・リニア！訴訟控訴審  
第5回口頭弁論（東京高裁101号）